

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
「幼児英語指導法」  
(短期大学・保育学科)

「幼児英語指導法」は、短期大学保育学科の教育課程において、2年後期に実施されている科目である。履修する学生数は多くないが、学びたいと参加する学生たちは熱心である。授業には、英語を話す子どもたちや家族との交流もあり、学生にとって、英語に親しむ体験は楽しく貴重な時間となっている。

年々国際化する社会で、今、育ちつつある子ども達にとって必要な英語体験とはどのようなものであろうか？保育現場でその体験の指導力を問われることも少なくない。保育学科で幼児英語指導法の授業を受けている2年生の中には、英語に苦手意識を持っている学生もいるが、それを克服しつつ、「未来を担う子ども達に、英語に触れる体験を与える方法」を学んでいる。

授業では、保育現場で実際に使える簡単な英単語やフレーズはもちろん、本場英語圏の保育現場と同じ遊びなどを学習している。英語を教えるための遊びを学ぶだけではなく、外国の本物の子ども文化（遊び、歌、絵本など）にたくさん出会う機会となっている。

写真1は、ぶんぶん広場で地域の子ども達やいろんな国の子ども達と学生が集い、遊びを通して英語で交流を楽しんでいる場面である。



写真1 英語のゲームを楽しむ

写真2、写真3は、英語で絵本の読み聞かせ、ペープサートと英単語を利用した表現遊び、英語の童謡、体を使った英語圏の鬼ごっこ遊びなどの場面である。学生たちが事前に練習を積み、当日を迎えた。子ども達に「英語の遊び」を提供し、楽しく遊ぶことができた。

授業を終えて、学生の感想には、外国の子どもの遊びや歌を知ることができてよかった。保育現場で日本語があまりできない子どものことを想定しながら学ぶことができた。実践的な授業で、自分が全力で楽しむことが保育において大事であることが分かった。はじめは恥ずかしかったが、だんだん自分を出せるようになり、自分の殻を破る体験ができた、などが見られた。



写真2 英語での絵本の読み聞かせ



写真3 英語での表現遊び

(文責：非常勤講師 リー・リッジウェル)